

The Magic of ROTARY
ロータリーのマジック

2024～25 年度年度
国際ロータリー会長 Steohanie Urchick



東京麹町ロータリークラブ

本日の例会プログラム

第 23 回例会 2025.3.3 (#2438) 舞の間
例会ホスト・紹介係 吉沢会員
受付係 藤田会員 齊藤会員
司会者 保科会員 ソングリーダー 山田会員

卓話「お米と馬の話題 あれこれ」

日本競馬会副理事長 山口 英彰氏
紹介者 荒川会員

前回の報告

第 22 回例会 2025.2.17 (#2437) 舞の間
例会ホスト・紹介係 藤田会員
受付係 地引会員 吉田会員
司会者 山田会員 ソングリーダー 保科会員

卓話「情報の信頼性・

40 余年のリサーチャーの視点から」

(株)ショッパースファースト代表取締役 打田 光代氏
紹介者 荒川会員

今期のモットー：「親睦を通じて奉仕を実践する」

会長報告

- 1) 本日は、マーケットリサーチのエキスパートの打田様に卓話を頂戴致します。のちほど宜しくお願いします。
- 2) さる5日には、ポリオ根絶チャリティーコンサートにお寒い中を多くの方々にお起し頂き、御礼申し上げます。当日の募金も13万円あまり御座いました。収支をとりまとめ、ロータリー財団へ寄付致します。
- 3) 細谷会員に15回目の米山メジャーダナーの感謝状が届いております。
- 4) 2月26日水曜日は千代田クラブの合同例会が御座います。ご出席下さい。

幹事報告

- 1) 5日のポリオ根絶チャリティーコンサートでは色々ありがとうございました。
- 2) 会長のあいさつにも有りましたように、26日(水)は東京RCの例会におじゃまする形で、千代田クラブの合同例会となります。事前にご登録された方は、帝国ホテル、12:30からの例会にお越し下さい。
- 3) メールにて、観桜会と競馬観戦親睦会のご案内を差し上げました。競馬観戦親睦会は4月26日と致します。今週中には出欠をお申し出ください。
- 4) 4月24日(木)開催の地区大会の登録は今週中にお申し込みください。登録料の15,000円をそえてお申し込み下さい。

例会記録

会員総数 58名 出席会員数 25名
ゲスト 0名 ビジター 8名
その他 2名 海外ビジター 0名
事務局 2名

ニコニコボックス

荒川会員：打田様卓話を宜しくお願いします。
ポリオ根絶チャリティーコンサートにご協力をありがとうございました。
若林会員：お陰様で結婚50周年を迎えました。
齊藤会員：健康管理委員会の健康増進イベント無事終了しました。
吉沢会員：パートナー誕生日。寒さも緩んでまいりましたが油断せずご自愛下さい。

次回予告

第24回例会 2025.3.10 (#2439) 会場：舞の間
例会ホスト・紹介係 吉田会員
受付係 濱田会員 末竹会員
司会者 保科会員
ソングリーダー 山田会員

卓話

「英国におけるネイチャーポジティブな取り組みの動向
～自然に基づく解決法を活用するには?～」
「ロータリー&ローターアクトの繋がり、帰って来なくなるクラブの秘訣」

ロンドン・ローターアクトー 野村奈也乃氏
紹介者 荒川会員



我がクラブのポリオ根絶運動のあゆみ 久保田智也会員(1/27 卓話)

ロータリークラブでポリオについて話すときには必ずこの話が出てくるのですが、紀元前 13 世紀のエジプトの壁画には、ポリオに感染したとみられる人の姿が描かれています。その人は、左脚は真っすぐ伸びているのですが、右脚は小児まひによる尖足で短くなっているのです。

しかし、ポリオは決して遠い昔の病気ではありません。1905 年にはスウェーデン、1916 年にはアメリカ、そして日本でも 1940 年代から大流行しました。特に 1960 年には北海道夕張市で大流行し、瞬く間に北海道全域に広がり、道内で 5600 人の患者が発生し、300 人が亡くなりました。ですから、日本でもつい最近までポリオの感染があったわけです。

ポリオは急性灰白髄炎といって、ポリオウイルスが引き起こす感染症です。ポリオウイルスは口から入り、消化管で増え、糞便となって排出されます。通常、消化管に入ったものは必ず吸収されるので、ポリオウイルスも体内に入ると吸収されるのですが、それが脳や脊髄に炎症を引き起こすのです。かかるのは 5 歳以下の小児に多く、小児まひともいわれています。

血液に入ったウイルスが脳に達すると炎症を起こすのですが、99%は症状が出ず、0.9%は症状が少し出ます。感冒様症状といって風邪のような症状なので、その程度でポリオにかかったと思う人はいないでしょう。だから、感染しても分からないのです。

しかし、1000 人中 1 人の割合で、まひ症状が出ます。例えば脊髄で炎症を起こすと、神経がまひします。神経には感覚を中枢に伝える求心性神経と中枢からの指令を体の各部に伝える遠心性神経がありますが、ポリオにかかると遠心性神経がまひし、5 歳ぐらいの子どもであれば手足が動かせなくなり、成長が止まります。

さらに、1000 人中 1 人のまひ症状が出る人のうち、80%はまひだけですが、残りの 20%は延髄に症状が出ます。延髄は呼吸と嚥下の中枢ですので、延髄に症状が出れば死に至ります。先ほど北海道で 300 人も亡くなったと言いましたが、その人たちは 1000 人の感染者のうちの 1 人の、さらに 20%の人たちなのです。1916 年のアメリカでは 7000 人が亡くなっていますから、3 万人以上がまひ症状となり、3000 万人が感染していたこととなります。それだけ恐ろしい病気だということをご理解ください。

ポリオに治療法はないのですが、われわれはワクチンを持っており、予防接種をすることができます。そしてポリオウイルスは人体でしか増殖できません。では、なぜポリオの撲滅が非常に難しいかというと、不顕性感染だからです。症状が出ないので感染が分からず、症状がない人にも全員ワクチンを投与しなければなりません。

だから大変なのです。

ワクチンには 2 種類あります。一つは、注射して投与する不活化ワクチンで、日本でも使われています。これはポリオと同じような症状が出ることはありません。もう一つは、ロータリークラブでも扱っているポリオの生ワクチンです。注射の必要はなく、口から入れるものですが、投与するとまれにポリオの症状が出てしまいます。これがポリオワクチンの難しいところです。

現在、野生株のポリオウイルスが常在しているのはアフガニスタンとパキスタンのみですが、両国とも政情不安で、なおかつ衛生状態が良くありません。川上の集落の排泄物が川にしみ出し、川下の集落の人々がその川で洗った野菜を食べたり、川の水を飲料水にしたりすると、感染してしまいます。ですから、衛生状態も改善しなければ、ワクチンを打っているだけでは駄目なのです。不活化ワクチンは高価ですが、非野生株感染はありません。でも、医療従事者でなければなかなか投与できません。一方、生ワクチンは誰でも投与できますが、非野生株感染があります。ですから、ポリオを根絶するためには衛生状態を改善し、不活化ワクチンに切り替えるという 2 段階のことをやっていかなければいけないと考えています。

感染症を根絶するためには、①ワクチンまたは治療薬があること、②顕性感染であること、③人畜共通感染症ではないことという 3 条件が必要です。ポリオは人間の体内でしかできないので、人間にワクチンを打てばいいのですが、心配なのはポリオが顕性感染ではない点です。先ほど述べたように、3 万人の患者がいたら 3 千万人が菌を持っているわけです。この問題をロータリークラブはどうするのか、本当にポリオを根絶できるのかと私は疑問に思っています。理論的には世界中 50 億人にワクチンを打てばいいのですが、それは大変でしょう。

日本では 3 種混合にポリオワクチンを加えた 4 種混合ワクチンを子どもたちに打っています。なぜ日本でポリオワクチンを打つかというと、ポリオが常在している国から旅行者が来ているからです。アメリカやイギリスでも旅行者を介してポリオ感染者が出ていますから、日本でも接種しています。

東京麹町ロータリークラブはよく、ロータリーの中でもポリオ撲滅運動発祥のクラブだといわれますが、これは正確ではないと私は思っています。ただ、当クラブがポリオ撲滅運動の源流であることは間違いのないでしょう。源流をつくったのは、当クラブの大先輩である山田彝(つね)さんと峰英二(ひでじ)さんです。

ポリオ撲滅運動の歴史をさかのぼると、まず 1978 年、国際ロータリー(RI)が「3H プログラム」を提唱しました。保健(health)、飢餓追放(hunger)、人間性尊重(humanity)のための補助金プログラムです。第 1 号として翌 1979 年、フィリピンのロータリークラブが自国の子どもたちにポリオワクチンの接種を行いました。これがロータリーにおけるポリオ根絶運動の発祥だと思えます。ただし、この運動は単年度で終わりました。

1981 年、山田さんが 3H プログラムで南インドを 1 カ月間訪問されました。当時、山田さんが会合に向かうときに公園を通ったら、両手両脚がなえて歩けない少年が蛇のようにのたくりながら進んでいたそうです。そして山田さんが会合を終えてその公園をまた通ると、その少年はまだわずか 10m 先を進んでいました。それを見た山田さんはその場で、この世からポリオをなくそうと決心されました。その場でそう決心できる人はなかなかいないと思えます。そういう人がわがクラブにはいたのです。

山田さんは日本に帰国してすぐ、クラブでポリオ撲滅運動の決議に成功します。自分の思いをまずクラブの思いにしたのです。そして翌年、峰さんを誘って 100 万円分のポリオワクチンを持ってインドに向かい、当クラブの 15 周年記念事業としてマドラスロータリークラブを訪問しました。ところが、ワクチンを冷蔵保存できず、志は遂げられませんでした。山田さんは、このワクチンを使って万が一患者が出たらロータリーのことが一切信用されなくなると思い、「捨てるでもいいから帰ろう」と言って帰国されたそうです。

と同時に、コールドチェーンをインド全土に用意できなければポリオは撲滅できないと考えました。そのためには麹町ロータリーだけでは無理だと思い、すぐに地区全体で行動を始めました。それが実を結び、1983 年に 258 地区(現在の 2580 地区)、275 地区(現在の 2750 地区)で「南インドポリオ免疫プロジェクト」の決議が行われました。私が会長時代にポリオの討論会を開いたとき、東京ロータリーの浅川さんというパストガバナーは、「山田さんが何度もガバナー事務所に来て熱弁を振るい、海外から手紙も来て、それで決議に至ったのだ」とおっしゃっていました。

山田さんは 1984 年、今度は 1000 万円分のポリオワクチンを持ってインドに行きました。1985 年には RI に一生懸命働きかけ、RI の 80 周年に合わせて「ポリオプラス計画」が決議されるに至りました。そして山田さんと峰さんは 1985~1987 年に 3、4、5 回目のインド訪問を成し遂げています。1988 年には RI と世界保健機関(WHO)が世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)を、2013 年には「End Polio Now 2018」のキャンペーンを立ち上げました。

こうした活動によって、1994 年にはアメリカ大陸で、2000 年には日本を含む西太平洋で、2002 年にはヨーロッパ全土で、2014 年にはインドを含む南アジアで、2020 年にはアフリカ全土でポリオフリー宣言が出ました。

1987 年、山田さんと峰さんが 5 回目のインド訪問から帰国した折、浅川さんが成田空港でお二人に会うと、インドの風土病にかかって痩せ、顔色も悪かったそうです。翌年、山田さんは逝去され、峰さんも後を追うように 1989 年に逝去されました。死因はお二人とも心不全ですが、私は「戦死」だと思っています。自分の力で何とかしてやろうと命を懸けて奉仕活動をしていた方がわれわれの先輩にいらしたことを、ロータリアンの一人として心に刻むべきだと思います。

最後に私見を述べると、ポリオ撲滅は本当に気合を入れてやらないと実現しません。ですから、もっと外部に向けて広報しないと駄目です。治安や衛生を改善しないとポリオはなくなるので、国や国際機関が動かないと無理であり、そのためには広報が必要なのです。資金もロータリーだけでなく、クラウドファンディングなどを使って一般の方から集め、まとめて送ればいいのです。本当にやるのであればいろいろなことに手を出さずに、選択と集中でポリオ一本で筋の通った活動をした方がいいと思えます。

福島南ロータリークラブでも資料をきちんと配ってくださっているようで、大橋廣治パストガバナーも「寄付をする、声となる、時間をささげる、自分で動くもよし、お金を払うもよし、広報するもよし」としっかり書いてくださっています。この言葉をわれわれ一人一人が心に刻み、山田さん、峰さんという素晴らしい先達が当クラブの会員としていらしたので、その志を胸にポリオ根絶に向けて一歩でも進めれば、こんなにうれしいことはありません。



クラブだより No.23

『多数ご参加下さい』

観桜会

3月24日(月) 17:30~受付開始

18:00~ウェルカムドリンク

会場:東京ミッドタウン ガーデンテラス 4F
「フィリップ・ミル」

東京麹町ロータリークラブ

設立	1968年6月17日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町 1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ 204号
		TEL:03-3263-9220
会長	荒川 和幸	FAX:03-3263-9122
幹事	守屋 幸作	e-mail office@koujimachi-rc.jp
公共イメージ 向上委員長	保科 充弘	URL: www.koujimachi-rc.jp